

公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
 佐賀県ユニセフ協会通信 (No. 103) uniwish31号 (2019年8月)
 佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号
 (電話・FAX) 0952-28-2077
 (業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00
 E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
 ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>
 facebook <http://www.facebook.com/unicef>



報告 2019年6月14日(金)~2019年6月16日(日)
 佐賀県ユニセフ協会創立25周年記念事業



佐賀県ユニセフ協会創立25周年記念講演会

共に生きる未来をつくろう

~ルワンダの悲劇から学んだ教育の大切さ~

2019.6.15.(土) 13:30~16:30

【プログラム】

1. オープニング♪ 響け! アフリカの鼓動♪
佐賀県立牛津高等学校ジャンベ部
2. 25周年記念式典
3. 平和の道コンサート マニ・マーティンさん
4. 講演「共に生きる未来をつくろう」
永遠囀・マリールイズさん



永遠囀・マリールイズさん



マニ・マーティンさん

佐賀県ユニセフ協会創立25周年記念事業は、国際社会の共通目標「SDGs」の広報と、今年8月に開催される第7回アフリカ開発会議「TICAD7パートナー事業」としても行いました。

記念事業の日程

- (1) 6月14日(金)
2校で出前授業
(午前中) 致遠館中学・高校、
(午後) 成穎中学校にて
- (2) 6月15日(土)
オープニング、記念式典
講演会&ミニコンサート
(佐賀県立美術館ホール)
- (3) 6月16日(日)
ルワンダ料理を囲んでの
交流会 (佐賀商工ビル)

佐賀県ユニセフ協会創立25周年を迎え皆様に感謝の事業を展開
 佐賀の地で約1400名の皆様にルワンダからのメッセージを届けました

佐賀県ユニセフ協会は今年創立25周年の節目を迎えました。本協会は、1994年10月、「財団法人日本ユニセフ協会佐賀友の会」としてスタートし、2004年4月に「財団法人日本ユニセフ協会佐賀県支部」となり、2011年4月に「公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織佐賀県ユニセフ協会」と名称を変更し今日に至っています。

これまでのご支援に感謝申し上げるとともに、これからも佐賀県における国際理解、国際協力を更に前進させる一助ともなるべく、25周年記念事業を3日間にわたり開催しました。

6月15日(土) 創立25周年記念講演会 オープニング

■オープニングでは、牛津高等学校のジャンベ部の皆さんに出演をしていただき、「響け! アフリカの鼓動」で、アフリカの音楽を体で感じる事ができました。若々しい学生さん達の踊りや力強いリズムに会場は大いに盛り上がりました。



創立25周年記念 式典

■ 記念式典では、中尾会長の主催者挨拶、及び、日本ユニセフ協会事務局長遠藤剛様からのご祝辞を頂戴しました。会長からは、佐賀県ユニセフ協会の使命とする理念やこれまでの方々のご支援への感謝の挨拶があり、遠藤事務局長からは、ユニセフの支援の現状等についてご紹介をいただきました。

また、式典では長い間、ユニセフへのご支援をいただいた7団体と5名の個人様方に、感謝の意味を込めて表彰をさせていただきました。

表彰者を代表して、(株)田口電機工業代表取締役田口英信様より謝辞をいただきました。



【中尾会長】



【遠藤事務局長様】



【表彰の様子】



【田口様】



佐賀県ユニセフ協会創立25周年記念 講演会 & ミニコンサート

■ 日本とルワンダの掛け橋としてNPO法人「ルワンダの教育を考える会」の永遠瑠・マリールイズ氏をお招きして、実際に経験されたルワンダ虐殺の悲劇をとおして、教育と平和の大切さを丁寧な日本語でお話をいただきました。また、ルワンダの国民的歌手マニ・マーティン氏には、「“許し” Imbabazi」を日本語でも歌っていただきました。歌に込められた、ルワンダの母たちが辛さを乗り越え、二度と惨事が繰り返されないようにと願い「許し」を選んだ思いを強く感じることができました。

最後の意見交流では、会場からの的確な質疑への応答に、内容が更に深まりました。改めて広い視野で物事をみつめることの大切さに気付かされ、自分には何が出来るかを考える機会をいただきました。

共に生きる未来をつくろう

講師 永遠瑠・マリールイズ 氏

～ルワンダの悲劇から学んだ教育の大切さ～

ルワンダは、海拔1000m～2500m、平均気温も25℃、気候がよく過ごし易い国です。そこで25年前、ルワンダでは悲しい出来事が起きました。ルワンダに日本の様に教育が行き届いていたならお隣さん同士が殺し合う悲劇は起こらなかったらと思います。

私は若い頃に洋裁の技術研修生として日本に来て、福島のおばあさんの家に2カ月ホームステイをしました。80歳のおばあさんが新聞を丁寧に読んでいる姿に衝撃を受けました、私の母は90歳を超えましたが、文字を読めません。長く日本にいる私は母から一度も手紙をもらったことがありません。

大虐殺で全てを無くしたけれど、命を救ったのは「学んだこと」。学んだことは奪われない。「自分で学んだものが、その人を生かしてくれる」「助けてくれるのは教育」。あなたの命はあなただけのものではない。日本という国を抱えて生きていく、その国にふさわしい人になってください。



「平和の道」コンサート

ミュージシャン マニ・マーティン 氏

マニ・マーティンさんはルワンダの有名なミュージシャンです。今回、初めて日本にお出でになり、平和の道コンサートを各地で行っておられます。自分が経験した辛い子ども時代を振り返りながら「声なき声、子どもたちの代弁者として歌う」と話されます。“許し imbabazi” や“故郷” など4曲を歌っていただきました。



“許し Imbabazi”
の歌詞の一部



♪ルワンダが流した涙は
ルワンダが選んだ許しは
いつか世界を救うだろう
いつか世界を救うだろう

♪家族を失ったルワンダの母たちは
憎しみをすてて許すことを選びました
子どもたちが怒りを恐れず
悲しみを繰り返さないようにと

♪許すことが平和への道
許しは平和の手段なんだ
許しをこうことを恐れなくて
さあ 心に安らぎを

6月14日(金) 致遠館中学・高等学校、成瀬中学校での出前授業

★ 致遠館中学校・高等学校 3・4校時
(中学体育館)
840名の生徒さん達と先生方が参加



■ 致遠館中学校・高等学校では、体育館いっぱいの皆さんに、ルワンダからの平和と教育そして未来へのメッセージを届けました。「Imbabazi (許し)」を合唱部の生徒さんとマニ・マーティンさんが「♪…許しは平和への手段なんだ…」と一緒に歌い上げました。また、永遠瑠・マリールイズさんの「学んだことはいつか必ず自分自身を助けてくれる。学んだものは奪われない。」の優しく分かりやすい日本語での語りにも熱心に耳を傾けていました。

★ 成瀬中学校 6・7校時 (多目的室)
260名の生徒さん達と先生方が参加



■ 成瀬中学校では、多目的室で身近にルワンダのお二人の話や歌を聴いてもらうことができました。「Imbabazi (許し)」の曲は、日本語で歌われ「ルワンダが流した涙は、ルワンダが選んだ許しは、いつか世界を救うだろう。」に生徒のみなさんは聴き入っていました。生徒からの謝辞でも「初めて知る内容に驚き、自分の生活を見直し、自分にできることを考え実行していきたい」というメッセージが伝えられました。



6月16日(日) ルワンダ料理を囲んだ交流会

「おしくなあれ」といって作りました。



■ 講師の方とのお別れの日には、佐賀商工ビルでルワンダ料理を体験しながらの交流会を行いました。メニューは「ジャガイモソテー ルワンダ風」「手羽元のトマト煮込み」「ルワンダ風スペシャルオムレツ」でした。マリールイズさんのまな板を使わない「玉葱みじん切り」の技に参加者はビックリ！水も食材も大事に使われます。参加した学生さんが「今度、ウガンダに行く予定があります。」という話に、「ルワンダはすぐ隣よ。ルワンダにぜひいらっしゃい。」とマリールイズさん。楽しい会話と美味しい料理で、心温まる交流会になりました。

ボランティアの皆さんありがとうございました。



学生さん達もお手伝いありがとう



【ボランティアや実行委員の皆さん達との集合写真】

■ 今回の記念式典や講演会では若い世代の学生ボランティアさん達に様々な場所で協力をしていただきました。オープニングの牛津高校ジャンベ部のみなさんは勿論、佐賀清和高等学校ボランティア部の皆さんによる司会・進行や各コーナーでのお手伝い、佐賀大学の学生さんによる式典のお手伝い等、若い皆さん達は一生懸命に自分の役割に取り組んでくれました。ユニセフの活動に関わったこの経験が、きっと今後活かされることと思います。



水と衛生 進歩と格差 22億人、安全に管理された飲み水入手できず 42億人、安全に管理された衛生施設(トイレ)使えず

ユニセフとWHO共同監査報告書発表

【2019年6月18日 ジュネーブ/ニューヨーク発】

ユニセフ（国連児童基金）と世界保健機関（WHO）は、水と衛生に関する共同監査プログラム（JMP）による最新報告書の中で、世界の何十億もの人が今も水や衛生的な生活環境を得られていないと報告しています。世界の約22億人が、安全に管理された飲み水の供給を受けられず、42億人が安全に管理された衛生施設（トイレ）を使うことができず、30億人が基本的な手洗い施設のない暮らしをしています。

水と衛生に関する新報告書 発表

JMP報告書「飲み水と衛生の進歩と格差（2000年～2017年）」は、基本的な水と衛生サービスをすべての人が受けられるようにという目標に向けて大きく進歩がみられているものの、提供されるサービスの質については大きな格差があると指摘しています。

「水と衛生施設があるだけでは十分ではありません。水が汚れていて、飲用するのに安全でなく、あるいは遠く離れた場所にあったり、トイレへのアクセスが安全でなかったり、制限されているとしたならば、世界の子どもたちに十分なサービスを提供しているとは言えません」とユニセフ水と衛生部長ケリー・アン・ナイラーは述べます。

「貧しく、村落部の子どもと家族が、最も取り残されるリスクが高いのです。政府は、この経済的・地理的格差を是正し、基本的人権を守るために、このようなコミュニティに投資しなければなりません」

アクセスと質の向上が課題

報告書は、2000年以降、18億人が基本的飲み水の提供を受けられるようになったとしていますが、こうしたサービスの有無、アクセス、そして質には大きな格差があると指摘しています。

10人に1人にあたる7億8,500万人が基本的なサービスを受けられません。その中には処理されていない地表水を飲む1億4,400万人が含まれます。データによれば、村落部に暮らす10人に8人が基本的サービスを受けられず、所得分布別の推計がある国々の4カ国中1カ国では、最も裕福な層が基本サービスの供給を受けている率は、最も貧しい層の2倍にあたります。



○ UNICEF/UN0215532/Rich
ユニセフが支援する給水所で安全な水を汲み、家に運ぶ10歳の女の子（南スーダン）

トイレを利用できず、屋外排泄も



○ UNICEF/UN0267941/Akhbar Latif
小学校のトイレを使う子どもたち（インド）

報告書は、2000年以降に、あらたに21億人がトイレを使用できるようになったものの、世界の多くの地域で汚水が安全に管理されていないと指摘しています。

また、依然として20億人が基本的な衛生施設（トイレ）を利用できず、その10人に7人が村落部に暮らし、3分の1が後発開発途上国に住んでいます。

2000年以降、屋外排泄をする人の割合は21%から9%と半分になり、23カ国は屋外排泄をする人の割合が1%を下回る「ほぼ撲滅」状態になりました。しかし、今でも6億7,300万人が屋外排泄をしており、その多くはいくつかの国に集中しています。さらに、39カ国では、屋外排泄をする人の数は増加しており、そのほとんどはサハラ以南のアフリカで、この期間に著しく人口が増加した国が多く含まれます。

健康を守る手洗いができず

報告書は最後に、2017年に家に水と石けんを備えた基本的な手洗い所がない人が30億人いるという新しいデータを示しています。これは、後発開発途上国の人々の4分の3近くが、基本的な手洗い所を持っていないことも示しています。毎年、29万7,000人の5歳未満児が不適切な水と衛生に関連する下痢症で命を落としています。

「政府は、水と衛生サービスへのアクセス、品質、および有無の格差を埋めることを、予算や計画戦略の中心に据えるべきです。すべての人に水と衛生サービスを提供するための投資計画を緩めることは、何十年もかけて達成した進歩を後退させ、その代償を新しい世代に支払わせることに繋がるのです」【資料提供：日本ユニセフ協会】



世界の飢餓人口、8億2,000万人以上 3年連続の増加に国連5機関が警鐘 栄養不良は南アジアとサハラ以南アフリカに集中

【2019年7月15日 ニューヨーク発】

推計8億2,000万人の人々が、2018年には十分な食料を得ることができませんでした。これは、2017年推計の8億1,100万人から上昇、そして3年連続での飢餓人口増加となります。ユニセフ（国連児童基金）、国連食糧農業機関（FAO）、国際農業開発基金（IFAD）、国連世界食糧計画（WFP）、世界保健機関（WHO）の国連5機関が発表した「世界の食料安全保障と栄養の現状」報告書最新版は、このような現状が、2030年までに飢餓をなくすという持続可能な開発目標（SDGs）への大きな課題となっている、と報告しています。



報告書はまた、発育障害の子どもの数を半減させ、低出生体重児を減らすという目標への歩みは非常に遅く、SDGs2の栄養関連ターゲットの達成がさらに危うくなっていると述べています。

飢餓は、多くの経済成長が遅れている国々で増加しており、特に、中所得国と一次産品貿易に大きく依存する国で顕著です。同国連報告書はまた、飢餓人口が増加している多くの国々では所得格差が拡大しており、貧しく脆弱で社会から阻害されている人々にとって、景気の低迷や悪化に対処することが、一層困難な状況となっている、としています。

国連各機関の代表は、「私たちは、貧困層に対応した包括的な構造変革を実施する必要があります。それは、経済脆弱性を低減し、飢餓と食料不安、そしてあらゆる形態の栄養不良に終止符を打つための軌道から外れないよう、人々に焦点を当て、コミュニティを中心に据えたものであるべきです」と述べています。

状況がもっとも厳しいのはアフリカであり、飢餓蔓延率が世界でもっとも高く、またどの地域でも飢餓蔓延率がゆっくりと、しかし着実に上昇しています。特に東アフリカでは、人口の3分の1に近い人々（30.8%）が栄養不良に苦しんでいます。気候や紛争の要因に加えて、経済の低迷と景気の悪化は飢餓の増加を助長しています。2011年以降、経済の低迷や停滞によって飢餓が増加している国のうち、半数近くがアフリカ諸国です。

栄養不良人口の最も多い地域はアジアであり（5億人以上）、その多くが南アジア諸国に住んでいます。あらゆる形態の栄養不良について、アフリカ・アジアの両地域が最も多くの割合を占めており、世界の発育障害の子ども10人中9人、消耗症の子ども10人中9人がこの2地域に集中しています。南アジアとサハラ以南のアフリカ地域では、3人に1人の子どもが発育障害です。

■ 主要な数値

— 2018年の世界の飢餓人口：8億2,160万人（9人に1人）

- ・ アジア：5億1,390万人
- ・ アフリカ：2億5,610万人
- ・ ラテンアメリカ・カリブ海地域：4,250万人

— 中程度および深刻な食料不安の人口：20億人（26.4%）

増加し続ける世界人口に対し、持続可能な生産によって健康的な食料を提供するため、食料システムの大きな変革が求められています。



© UNICEF/UN0320783/De Wet
モザンビークで、栄養不良の検査を受ける1歳のマルケス・アントニオちゃん。（2019年4月撮影）

【資料提供：日本ユニセフ協会】

賛助会員募集中！ 日本ユニセフ協会賛助会員としてご協力ください。

（公益財団法人日本ユニセフ協会の賛助会費は、ユニセフ募金や寄付金と同様、寄付金控除の対象になります。）

日本ユニセフ協会賛助会員とは

賛助会員の種類と期間

1. 一般賛助会員 1口 5,000円…個人の方が対象
2. 学生賛助会員 1口 2,000円…学生の方が対象
3. 団体賛助会員 1口100,000円…企業、団体、有志のグループなどが対象 期間は、1年ごとの更新。

✳️ 詳細については、佐賀県ユニセフ協会までお問い合わせください。



イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」参加

- 4月11日 (木) イエローレシート贈呈式
 <イオン佐賀大和店>
 ※ イエローレシートキャンペーンとは、毎月11日にレジで発行される黄色いレシートを応援したい団体のBOXに投函すると、買いもの額の1%がその団体に寄付されるというものです。



- イエローキャンペーン参加
 4月10日 (水) ・ 5月11日 (土) ・ 6月11日 (火) ・ 7月11日 (木) ・ 8月11日 (日) <イオン佐賀大和店>

- 5月3日 (金) 「有田陶器市」での「ロヒンギャ難民緊急支援」募金活動
 ※今年で116回目を迎える有田陶器市は、期間中126万人を超える人出でした。約4キロの通り沿いを中心に、焼き物店450店、飲食店を含めると計約600店が出店していて、連日、大賑わいでした。
 佐賀県UD推進室のマスコットキャラクターの「ゆうちゃん」が今年も募金活動に一役かってくれました。また、SDGs広報の「ルーレットゲーム」も子ども達には大人気でした。学生ボランティアさんが募金活動に20名も参加してくださいました。
 <有田 今右衛門駅前>

SDGsルーレットで広報活動

SDGsって知っていますか？
 “人間が住み続けられる地球”にするために、世界中の皆で取り組む17の目標です。
 あなたは何から始めますか？

- 5月19日 (日) 第50回『青年の日』フェスティバルでユニセフの紹介 (50回を節目に今年で終了となりました。長い間お世話になりました。)
 <唐津市虹の松原広場>



- 6月2日 (日) 「第35回鹿島ガタリンピック」会場で募金活動
 <鹿島市七浦海浜スポーツ公園>

※ 佐賀県ユニセフ協会は、ガタリンピック実行委員会の皆様や鹿島東部中学校の生徒の皆さんの協力の下、会場内で募金活動や「ユニセフってなあに」のパネル展示や「SDGs 輪投げゲーム」での広報活動等を行いました。



- 6月9日 (日) 鳥栖市立田代小学校 出前授業 6年生 道徳の時間
 <鳥栖市立田代小学校>
 テーマ「世界の子どもの現状とユニセフの仕事について」



- 6月11日 (火) サガテレビ「かちかちPress宣伝隊」に出演⇒佐賀県ユニセフ協会創立25周年記念講演会の宣伝 <サガテレビ>

- 6月20日 (木) コープさが生活協同組合総代会にて ユニセフ募金の贈呈
 <アバンセホール>



- 6月27日 (木) ユニセフ出前授業 3年生 102名
 「平和学習 ～わたしたちにできること～」<長崎市立小江原中学校>



- 7月4日 (木) コープさが生活協同組合代表者から中尾会長へユニセフ募金贈呈
 <佐賀新聞社>

※ 組合員様のご理解とご協力で「ロヒンギャ難民緊急募金」「東ティモール指定募金」への支援



- 7月9日 (火) 佐賀南部郵便局長会から使用済み切手の贈呈
 ※各郵便局で利用者様に呼びかけて収集されたもの



- 7月20日 (土) レッドトルネード試合 (VS 大崎電気) 後の募金活動
 <神埼中央公園体育館>

- 7月24日 (水) ユニセフパネル展・地雷レプリカ展 シリア緊急募金活動
 佐賀県生協連主催 <アバンセ ホワイトエ>
 ピースアクション2019 ～みんなで平和を考える一日にしましょう～



- 7月24日 (水) ユニセフ出前授業 ドリームパーク 脊振小学校
 ほし組 21名「やってみようボランティア」 <神崎市立脊振小学校>



- 8月9日 (金) ～8月12日 (月) 佐賀市平和展にてユニセフパネル展&地雷レプリカ展
 パネル展示：「長谷部誠大使ギリシャ難民キャンプ訪問」
 <佐賀市立図書館>

第26回 ユニセフ チャリティーバザー ～すべての子どもに教育を～



5月19日(日) 14:00～15:30 佐賀玉屋南館 アーケード

バザー及び街頭募金の
合計は、**130,728円**でした。
ご協力ありがとうございました。

■ 5月19日(日)に毎年恒例の「チャリティーバザー」と「街頭募金」を佐賀玉屋デパートの南アーケードで開催しました。佐賀県ユニセフ協会では、世界中の子どもたちが未来を切り拓いていくために、どの子どもにも教育を受けさせることが大切だと考え、今年は、イベントや様々な広報・募金活動においても“教育”をキーワードに活動を進めています。

今年のユニセフチャリティーバザーのテーマも「すべての子どもに教育を」です。

■ 1階のチャリティーバザー会場には、断捨離ブームの影響もあったのでしょうか？“必要な方に必要なものを”ということで、例年にも増して、7000点近く 県内外からお寄せいただいたバザー品が並びました。バザー当日は、学生ボランティアの皆さん等、総勢37名ものボランティアの皆さんのご協力をいただき、バザー品の販売や街頭募金活動を行うことができました。

ボランティアとして協力をしてくださった皆さん、ありがとうございました。

北陵高等学校生徒と先生 11名、
立正佼成会佐賀教会の皆様 8名
佐賀商業高等学校生徒と先生4名
個人でお手伝い3名、スタッフ11名



世界で学校に通っていない5歳から17歳の子どもの数は3億300万人で、その3分の1以上に相当する1億400万人は、紛争や自然災害の影響を受ける国に暮らしています。そこに暮らす15歳から17歳の子どもの5人に1人は、これまで一度も学校に通ったことがなく、5人に2人は小学校を修了していません。(2018年9月19日ユニセフ報告書)



ご支援
ありがとうございます

北部児童センター様 母子草様 曲川小学校児童会様 田口電機工業株式会社様 すぎの子文庫様
コープさが生活協同組合様 ボーイスカウト有田第一団様 致遠館中学校・高等学校様
高木瀬小学校様 (株)佐賀新聞社様 SI佐賀西部様 トヨタ紡織九州レッドトルネード様
佐賀リハビリテーション病院様 開成小学校様

ヘルスランチあららぎ様 西村会計事務所様 (株)佐賀共栄銀行様 市民活動プラザ様 栗山医院様
ニチレキ株式会社様 佐賀バルーンミュージアム様 国際ソロプチミスト佐賀西部様
本庄公民館様 インテリア新生様 道海島小学校様 ポリテクセンター佐賀様 池田内科皮膚科様
佐賀県南部地区郵便局長会様 副島病院様 大塚製薬佐賀工場様 佐賀県民協働課様
福泉禅寺様 (順不同：2019年4月1日～2019年8月20日)

※ いろいろな形でのご支援ご協力で心から感謝申し上げます。
個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、
この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。



unwish の仲間たち!

国際ソロプチミスト佐賀西部のみなさん

—武雄市—

国際ソロプチミスト佐賀西部の
成り立ちと理念



国際ソロプチミスト佐賀西部の皆さん

◆**国際ソロプチミストとは**、理解促進、提唱、活動を通じて「女性と女兒の生活と地位を向上させる」ための国際的ネットワークです。アメリカで100年ほど前に職業を持つ女性だけの組織としてスタートしました。ソロプチミストの語源は、ソロ(姉妹)とオプティマ(最善)という2つのラテン語からなり、現在、132の国と地域で75,400名の会員が人権と女性の地位を高める活動をしています。

◆**国際ソロプチミスト佐賀西部**は、1979年に認証され、その後、日本南リジョン(九州・沖縄地区)に所属し、ソロプチミストの理念のもとに、佐賀県内の杵藤地区を中心に、23名で活動をしています。

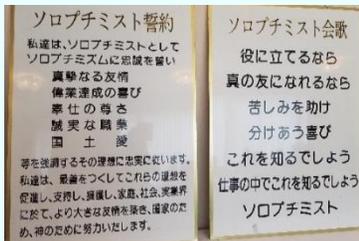
毎月第3木曜日の例会には、講話や情報交換などの研修をしています。

◆ソロプチミストの主なプロジェクト

夢を生きる・・・女性のための教育・訓練

夢を拓く・・・女子中高生のためのキャリア・サポート

◆2019年10月8日には、創立40周年を迎えます。



例会で唱和されている言葉



例会の様子

主な活動の紹介

◆女子学生への奨学金制度

『夢を生きる賞』として、女性と女兒の生活と地位向上のために必要な教育や技術訓練を受けるための資金援助を行っています。世界の貧困の7割が女性だと言われている中、同じ女性として支援の必要性を強く感じて活動を行っています。

『夢を拓く賞』としては、次世代のリーダー育成のために、女子中学・高校生を対象にキャリアサポート講演会やユースフォーラムなどを支援しています。



武雄中学校での講演会の様子

◆顕彰事業 “社会ボランティア賞”など

地域社会のニーズに適合した地域密着型のボランティア活動を継続的に行い、誠実に責任を果たしている団体や個人を称える活動をしています。留学生支援の「国際下宿屋」や 嬉野市で読み聞かせ活動が続いている「おはなしどんどん」など、長きにわたる社会奉仕を顕彰しています。



社会奉仕賞の授与

ユニセフとのつながり

◆ 国際ソロプチミスト西部様には、2001年よりユニセフへの支援を様々な形でいただいています。毎年、5月のユニセフバザーには、会員の皆様から多くのバザー一品や募金をいただいています。

また、研修会において、世界の厳しい環境で生きている女性や子ども達の話をしていただく機会もあります。



卓話もさせていただきました



ユニセフバザーへの提供や 募金への協力



今後の展望



馬渡さん

まずは、会員を増やし、地域との交流を深める中で、ソロプチミストについて知っていただき、地域に根ざした団体になりたいと考えています。

(語り：国際ソロプチミスト佐賀西部 会長 馬渡真知子様、取材：江島きよ子)